

21 世紀の生命を育む

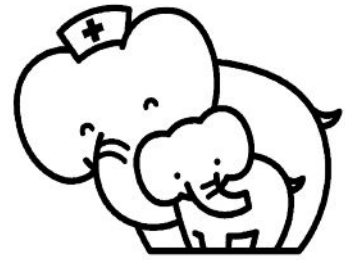
はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士:新潟大学医学博士,日本小児科学会認定小児科専門医,日本アレルギー学会認定アレルギー専門医



日本脳炎ワクチン

を受ける前にお読みください。

日本脳炎に自然感染したとき

●日本脳炎はウイルスの感染で起こります。このウイルスはヒトからヒトに直接感染するわけではありません。ウイルスがブタの体内で増殖して、蚊(コガタアカイエカ)によって媒介され、ヒトに感染します。

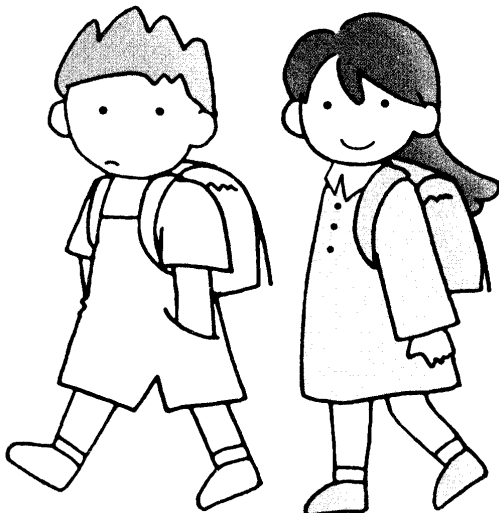
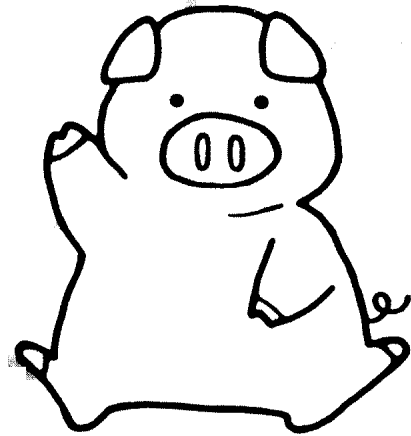
●7-10日の潜伏期間の後に、突然、高熱、頭痛、嘔吐(おうと)、意識障害、けいれんなどの症状が出現して、急性脳炎になります。

●流行は西日本に多いですが、ウイルスは北海道など一部の地域を除くほぼ日本全国に分布しています。これらの地域では、ブタでの流行が毎年6月から10月まで続きます。この間に80%以上のブタが感染します。

●日本脳炎の好発年齢は、60歳を中心とした成人と5歳未満の幼児です。以前は児童にも好発していましたが、予防接種の普及により減っています。

●感染者のうち、1000~5000人に1人が脳炎を発症します。脳炎にかかったときの死亡率は約15%ですが、知能や精神、神経に重い後遺症を残す人が約50%あります。

●無菌性髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。

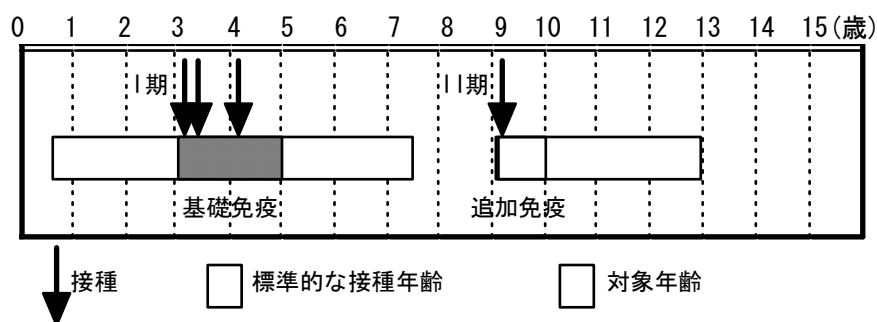
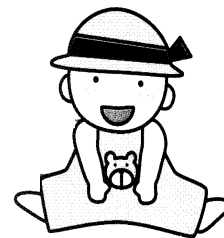


日本脳炎ワクチンについて

○日本脳炎ワクチンは不活化ワクチンです。生(なま)ワクチンのように生きてウイルスが含まれているわけではありません。ワクチン株が体内で増えるわけではなく、十分な抗体獲得と免疫の維持には決められた接種回数と間隔を守ることが重要です。

日本脳炎ワクチンの受け方

- 第Ⅰ期 生後6カ月から90カ月の間に、基礎免疫として3回の接種を受けます。通常は、3歳になったら1-4週の間隔で2回受け、概ね1年後に1回の接種を受けます。流行地では3歳未満で接種を受けた方がよい場合がありますが、接種するワクチン量が半分になります。
- 第Ⅱ期 9-12歳(通常9歳、小学校4年生)に1回、追加接種を受けます。



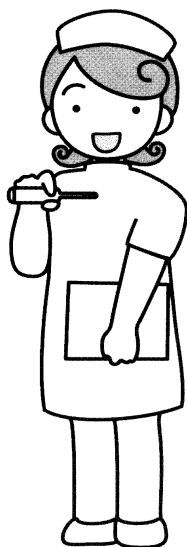
○生後90カ月(7歳半)から9歳までと13歳以降は、対象年齢からはずれますので、公費による接種を受けられません。この年齢で接種する場合には任意接種扱いになって自費になりますので、御注意下さい。

日本脳炎ワクチンの副反応

○接種後2日以内に37.5℃以上の発熱が1.6%、注射部位の発赤、腫脹が11%出現します。発疹が0.3%以下出現しますが、通常は心配ありません。発熱した場合には解熱剤の坐薬を使用してかまいません。

(*乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの副反応は123例中49例(39.8%)に認められました(1回目接種から3回目接種の累計)。主なものは発熱(18.7%)、咳嗽(11.4%)、鼻漏(9.8%)、注射部位紅斑(8.9%)で、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられました。)

○接種後に、高熱、けいれんが生じた場合には、受診して下さい。



接種を受けた後の注意

○接種当日はいつも通りの生活がかまいませんが、激しい運動は避けて下さい。入浴は差し支えありません。

○接種した部位は揉まないで下さい。押さえるだけで十分です。わざとこするのはやめましょう。

○日本脳炎ワクチン接種後は、1週間は他のワクチンを接種できません。日本脳炎ワクチンどうしは1-4週間の間隔をあけて下さい。

病気の後の予防接種までの期間

○麻疹の治癒後4週間、風疹・水痘・おたふくかぜの治癒後2-4週間、突発性発疹・手足口病・伝染性紅斑などの治癒後1-2週間程度は、予防接種を受けない方がよいでしょう。ただし、疾病流行期はこの限りではありません。

○上記疾患以外で高熱が出た場合には、1週間は予防接種を受けない方がよいでしょう。